

続・奇跡はある

(03)

徳永 耕一

題字・林田八郎

京都ホテルと二〇二二年末

京都ホテル購入の検討に当たっては先ず、常務でホテル責任者の島あゆみが、トップバッターとして現地視察に向かった。京都では、SMBC信託銀行京都支店の案内でつぶさに物件を見て、「場所や建物は問題ありません」との朗報を持って帰ってきた。

その後、私を含めて上席執行役員中村英理子や同じく上席執行役員河野一郎や幹部たちが数回現地を見学し、諸点を確認のうえ、ついに購入を決定して二〇一九年六月、売買契約を締結して、九月に最終取得した。

余談だが、京都ホテルまでは、伊丹空港から予約タクシーを使えば最短二時間で行けることが、何度か行き来するうちに分かった。二時間と思うと、京都出張もさほど苦ではなくなった。

ホテルの名称は、「ジスコ」の名を京都にとどめたいの思いつから、「ジスコホテル京都御所西」とした。門構え以外にさして特徴のないビジネスホテルだが、「京都御所に一番近いホテルのひとつ」という点は、自慢できる特徴だと思つ。

マネージャーには、私の次女徳永佳奈を当てた。私のいとこで京都に住む平塚弘美も、勤務してくれた。



ジスコホテル京都御所西



ジスコ不動産株式会社
ジスコホテル株式会社
ジスコ子ども支援株式会社

長崎県諫早市永昌町4-26

TEL | 0957-27-1112 | FAX | 0957-26-1777

京都御所は、ホテルから1分程度のところにあり、広々とした敷地は、散歩や植物鑑賞や気分転換にもってこいである。私も、自社ホテルに泊まったときは、必ず御所を訪れ、開放感に浸るとともに、しばし歴史の悠久さを肌で感じている。御所に近いということは、しかし、賑やかな三条や四条からは遠いということ、閑静すぎるというのが欠点である。

二〇二〇年コロナ禍が始まって以来、インバウンドは去り、国内旅行の火も消えて、京都ホテルの採算は極端に悪化している。今のところ、グループの他のホテルが堅調で、なんとか損失をカバーできているが、いつまでもそれを続けることはできない。

二〇二四年にはホテルのすぐ近くに文化庁が引越してくる。たいへんな朗報で、期待するところ大だが、しかし、座して待つだけでは低迷からの脱却は程遠い。自らの「知恵と努力」で、なんとか早期に採算に乗せたいと思つ。「ピンチはチャンス」だ。

二〇二二年十一月記念式典後、私は京都出張を最後に、久しぶりにゆっくりと年末と正月を過ごすつもりでいた。しかし、それを「許さない」とばかりに、年末にかけて次々と重要な案件が舞い込んできた。

不動産関連では、七億円を超える呉市のビル、市街化調整区域にチャレンジする諫早市宗方町の第二期開発、UR都市機構案件、複数の賃貸マンション取得など…。

ホテル関連では、完成を控えた長崎ホテル、小浜温泉の雲仙荘、島原市のHotel & Spa花みずきなど…。

これらは、来る年の多忙さを暗示して余りあるものだった。

〈次回10月4日掲載予定〉